

オンライン授業の課題

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、2020年度前期はオンライン授業を実施することとなりました。LT開発室では、宇都宮キャンパスの教員のみなさまにご協力いただき、前期終了後にオンライン授業に関するアンケートを実施しました。その結果から、オンライン授業では、教材の準備や学生へのフィードバックの負荷が高い、学生とコミュニケーションが適切に取れず、学生の様子が把握できない、期末試験などの成績評価を適切に実施できないなどの問題があったことが判明しました。準備やフィードバックの負荷については、操作への慣れや、過去に作成した教材の再利用などで、今後はある程度軽減されてゆくと考えられます。

一般的に対面授業と比べてオンライン授業の修了率は、低くなるのが分かっています。学生の観点からその理由を3つ挙げてみます。

1つ目は、自律的に学習しなければならないという難しさがあります。これまでは、大学に通い、時間割とチャイムという時間管理のなか、教室で授業に出席することによって、学習時間を作ることに繋がっていました。しかし、オンライン授業では、自律的に同期型の授業に参加したり、LMSの学習コンテンツに取り組む必要があります。

2つ目は、学習する上で孤独になりやすいということがあります。対面授業では、学習する仲間が教室の同じ空間にいるという環境が、自身を学習に向かわせることに寄与していました。しかし、自宅でのPC等の画面を通じたオンラインでの受講では、一緒に学習している仲



間の存在が希薄になってしまい、孤独に学んでいる状態になりがちだということが分かっています。

3つ目は、満足な環境で受講できない学生の存在です。例えば、自由に使えるPCがない、受講するのに十分なインターネット回線がないという状態は、対面授業で考えると大学に通学できないということと同じ状態であり、オンライン授業を受講する以前の問題だと言えます。対面授業と違うことが多く大変ですが、これらのことを前提にするとオンラインでの授業を考える上でのヒントになるかもしれません。

また、教員による成績評価についても注意が必要です。オンラインでは学生を監視できないため、教場試験と同等のことはできません。たとえば学生がPCでテストを開き、スマートフォンで調べながら受験することを技術的には妨げられません。LMSのテストは、資料の持ち込みが可能な試験となることにご注意ください。そのため、1回の試験のみで成績を評価するのではなく、授業中にいくつか課題を設け、授業全体の学習活動に基づいて評価することを検討すべきと考えられます。

成績がどのような方法で評価されるかは、学生の学習活動に影響します。LMSのテストによるオンライン試験で評価される場合、学生はあまり活発に学習しないかもしれません。成績に関わる課題を適宜出題すると、学生はそれに応じた活動をしなければなりませんので、このような課題をオンライン授業における学習活動をガイドする手段として利用するという考え方もあります。

オンライン授業における評価については、名古屋大学教養教育院(*1)や京都大学教育コンテンツ活用推進委員会(*2)が提供している解説記事も参考になると思われますので、ご参照ください。

・参考URL

(*1)オンライン授業で試験と成績評価を行うための教授法（ティップス） 名古屋大学教養教育院

<http://office.ilas.nagoya-u.ac.jp/オンライン授業での試験と成績評価>

(*2)オンライン授業で、学習をどう評価するか？ 京都大学教育コンテンツ活用推進委員会

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/connect/teachingonline/assessment.php>

同期型オンライン授業でのBlackboard Collaborate Ultraの活用

Blackboard Collaborate Ultra（以下Collaborate）は、同期型オンライン授業のためのビデオ会議のサービスです。LMSコース内にセッションを設置した上で、次の機能を使うことができます。

● ビデオ会議

PCやタブレット等のカメラ、マイクを使用して映像と音声をやりとりしたり、テキストでのチャットができます。

● 画面共有

端末の画面を共有します。たとえば教員端末で実行中のPowerPointのスライドショーを学生に見せながら講義をすることが可能です。

● セッションの記録

記録は学生へ公開できるので、授業中の講義を記録してそのビデオを復習用などの教材として提供できます。

● アンケート

学生の理解確認の目的のほか、たとえば授業冒頭のアイスブレイクのために、全員とのコミュニケーションツールとして使うこともできます。



● ブレークアウトグループ

グループ活動向けの機能です。セッション内にグループごとの部屋を設置することができ、部屋の中ではビデオ会議などの機能をグループ内で閉じて使うことができます。

● セッションのレポート

学生の出席を確認できます。レポートは、Collaborate上で参照できるほか、CSVファイルとしてダウンロード可能です。

なお、Collaborateで講義をする場合は、音質の確保、ネットワーク負荷軽減のために、学生のカメラ、マイクはオフにするよう指示しておき、質疑などで適宜切り替えるようにします。また、画面共有をして講義をするときは、教員の写るカメラ映像はオフにした方がCollaborateへの接続が安定してよいでしょう。

効果的なオンライン授業に向けて

2020年度は「教員も学生も初めて」という混乱の中、なんとかオンライン授業を実施したという状況でした。その経験からはオンライン授業の有用性も明らかになってきており、対面授業と併用して今後もオンライン授業を行うことになるでしょう。そこで、どのようにすれば効果的なオンライン授業になるのかを検討することが重要になってきます。

以下は、効果的なオンライン授業、授業実践事例などに関して、2020年9月14日に開催された「大学向け“ポストコロナ時代の新様式”事例セミナー」において本開発室 渡辺博芳室長が行った講演のビデオです。ご興味がある方は是非ご視聴ください。

<http://edixdemo.mediasite.co.jp/Mediasite/Play/ed148200a80c4e0c801bb3be999c0e621d>

2020年度コースの動画・音声ファイルの削除にご協力ください！

LMSでは、動画・音声ファイルなどを配信することを想定しておりません。全学でのオンライン授業実施に伴い、例外的にやむを得ない場合は動画・音声ファイル等の掲載をしていただきましたが、学期終了後にはすみやかに削除するようお願いしてきました。LMSの容量がひっ迫しておりますので、学期

終了後の動画・音声ファイル削除にご協力のほどよろしくお願い申し上げます。なお、学生に表示する画面から削除しただけでは、ファイル自体は「コンテンツ管理」に残っています。以下の資料の手順で確実に「コンテンツ管理」から削除してください。

<http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp/etc/lms-s1.pdf>

LMS Tips

- ◆ 同期型授業で学生にグループで話し合いをさせる
- ◆ 課題点数欄で自動的に半角入力になる(Firefoxのみ)

※上記のTipsをクリックすると詳細が開きます

Tipsは帝京大学LMSサポートサイトからご覧いただけます。（<http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/lms-ss/>）

編集後記

コロナにより、今年度は教職員も学生も大変な思いをしながら過ごされたことと思います。LT開発室においても、問い合わせ件数が前年度に比べて約8倍に増え、コロナ禍に入職した私も微力ながら皆さまのサポートをしてまいりました。落ち着いてきてはいますが、皆さま体調に気を付けてお過ごしください。（梶原）

帝京大学 ラーニングテクノロジー開発室 宇都宮キャンパス本部棟2号館2F 203室

◇連絡先：TEL 028-627-7243（直通） / Mail LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇室員：渡辺博芳(室長)、古川文人、小島一晃、宮崎誠、高野芳恵、渡部里美、梶原裕加、鈴木邦江、萬谷美紀

